

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 石峯 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

石峯 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成 2 7 年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果の平均得点で全国平均の正答率を下回り、昨年度よりも正答率が下回った。無回答率は昨年度同様減少し、全国平均に比べて良好な結果が得られた。 本校の三学年は学力の二極化という現状があり、平均正答率ではどうしても下回るという状況である。 「話す・聞く・書くことに関する問題に課題があり、今後授業で取組を強化していく必要がある。」 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「言語についての知識・理解・技能」に関する問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	「話すこと・聞くこと・書くこと」に関する問題について取組を強化し努力させていくことが必要である。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果の平均得点で全国平均の正答率を下回ったが、昨年度とほぼ同じ正答率であった。無回答率は昨年度同様減少し、全国平均に比べて良好な結果が得られた。 「書くことに関する問題に課題があり、今後授業で取組を強化していく必要がある。」 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く」問題が正答率で全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	「文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える」問題に課題があり、今後努力させていくことが必要である。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果の平均得点で全国平均の正答率を下回ったが、昨年度とほぼ同じ正答率であった。無回答率は昨年度同様減少し、全国平均に比べて良好な結果が得られた。 「資料の活用」に関する問題は全国平均を上回り、「関数」に関する問題は全国平均と同点であった。 「数と式」に関する問題に課題があり、今後取組を強化する必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解している」問題は全国平均を大幅に上回った。	
	努力が必要な問題	「方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している」問題は全国平均を下回り、今後努力が必要である。	

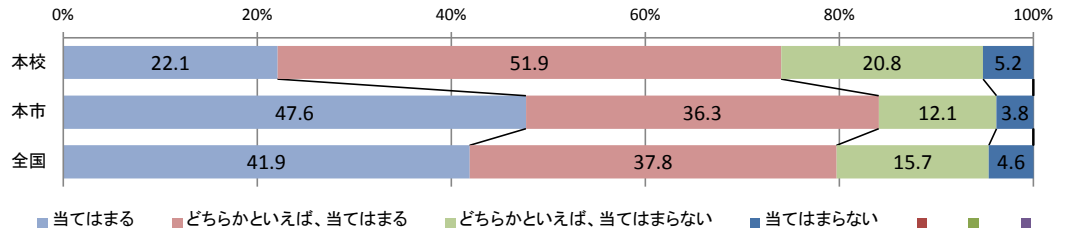
数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果の平均得点で全国平均の正答率を下回り、昨年度よりも正答率が下回った。無回答率は昨年度同様減少し、全国平均に比べて良好な結果が得られた。 「図形・関数・資料の活用」に関する問題に課題があり、今後授業で取組を強化していく必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することができる」問題は全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	「資料の結果を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」問題は全国平均を下回り、今後努力させる必要がある。	

理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果の平均得点で全国平均の正答率を下回り、前回よりも正答率が下回った。無回答率は前回同様減少し、全国平均に比べて良好な結果が得られた。 「物理的領域・生物的領域・地学的領域」に関する問題に課題があり、今後授業で取組を強化していく必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「塩化ナトリウムを化学式で表すことができる」問題は全国平均をかなり上回った。	
	努力が必要な問題	「他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができる」問題は全国平均を下回り、今後努力させる必要がある。	

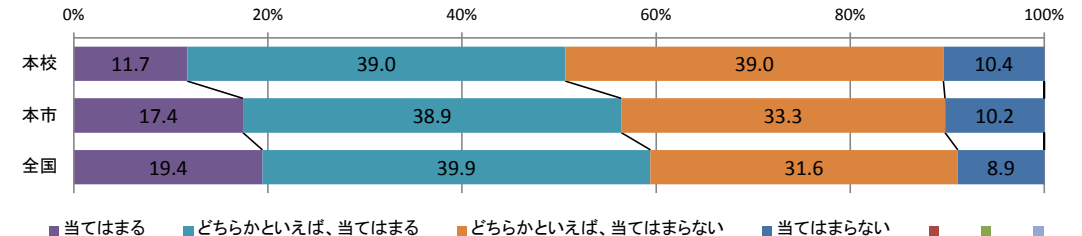
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

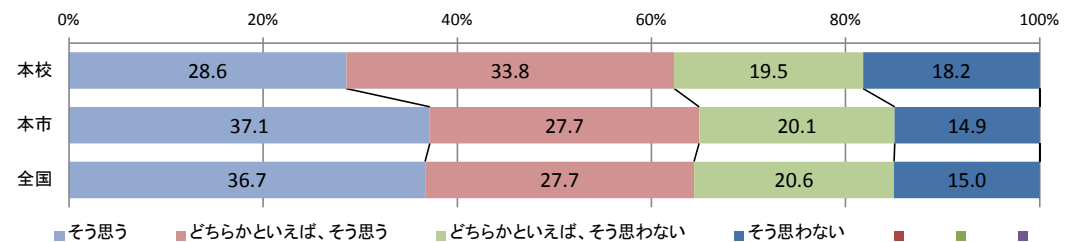
41
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。



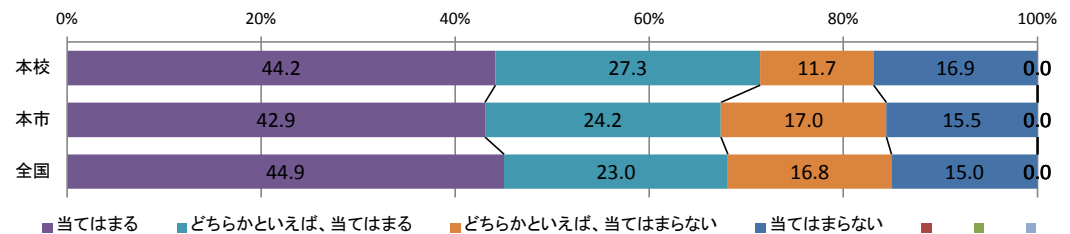
42
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。



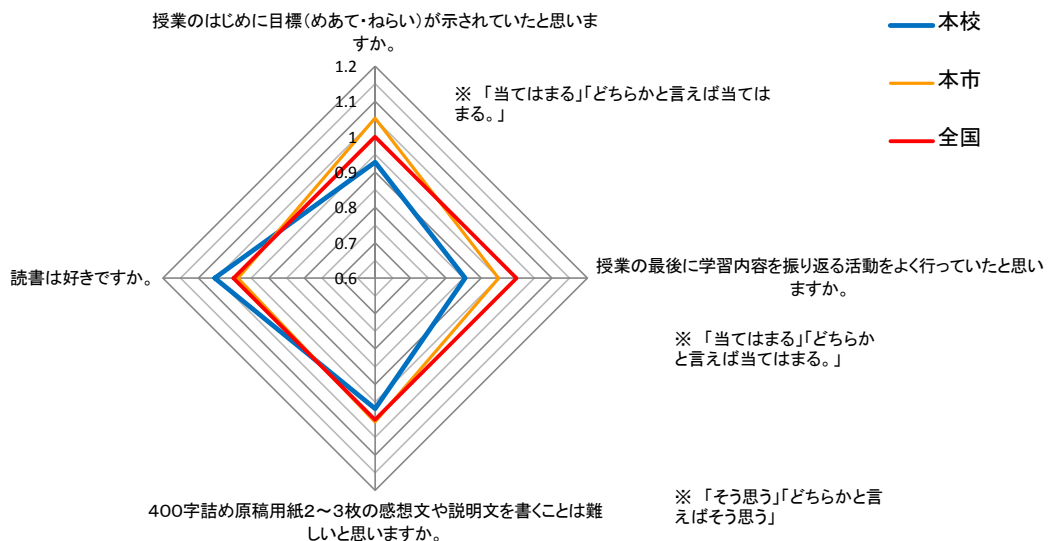
44
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。



51
読書は好きですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



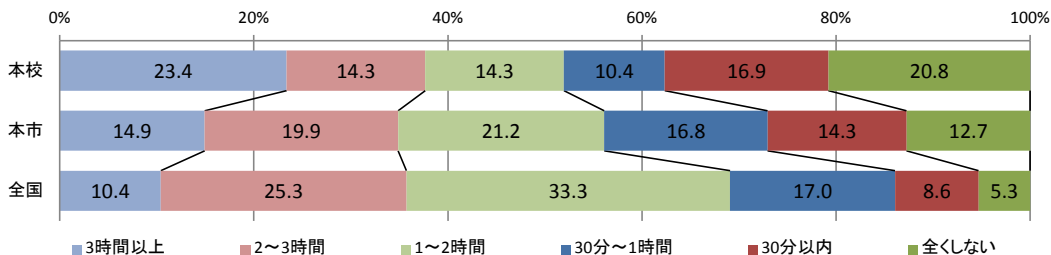
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・「授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」については、H25(52%)→H26(68%)→H27(74%)と過去3年間で22%上昇しており、取組の成果であると思われる。
- ・「授業の最後に学習内容の振り返り活動を行っていたか」については、H27(51%)で、全国比(87%)で授業のはじめの目標の全国比(93%)よりも達成率が低く、今後の取組の課題である。
- ・「400字詰め原稿用紙2、3枚の感想文や説明文を書くことが難しいと思わない」割合が、H25(28%)→H26(20%)→H27(38%)と過去3年間で10～18%上昇しており、国語科の授業等での新聞のコラム書き取りなどの取組の成果であると思われる。
- ・「読書は好きですか」については、全国比(105%)となり、全国平均を上回った。これは、北九州市が推進している朝読書を本校でも積極的に推進してきているからであり、また図書館教育の充実もあると思われる。

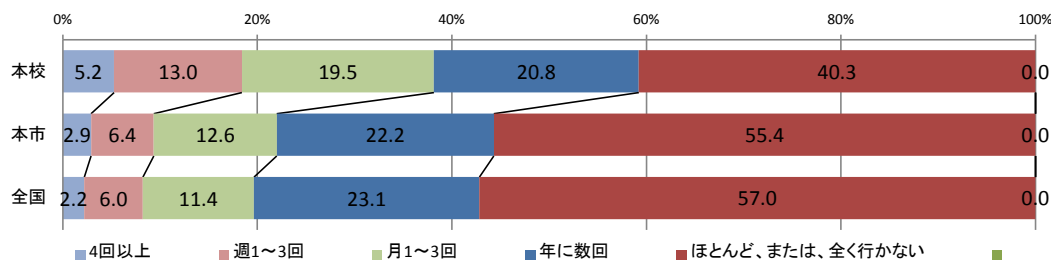
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

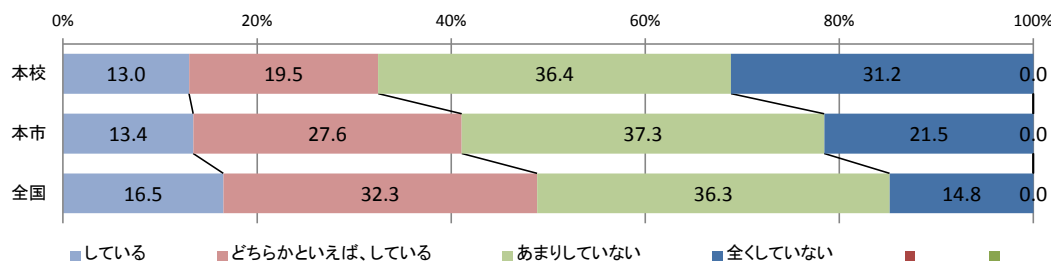
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



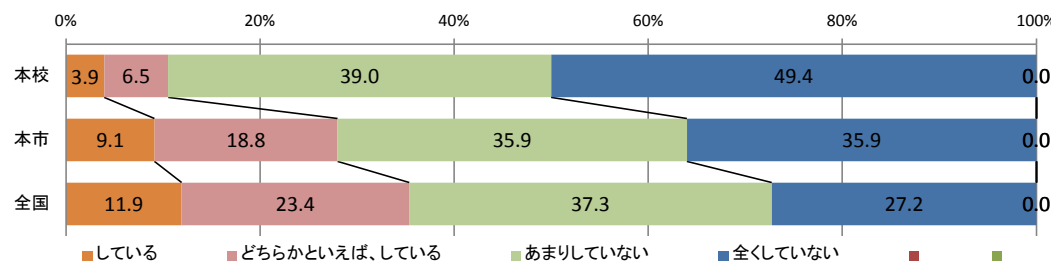
17
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。



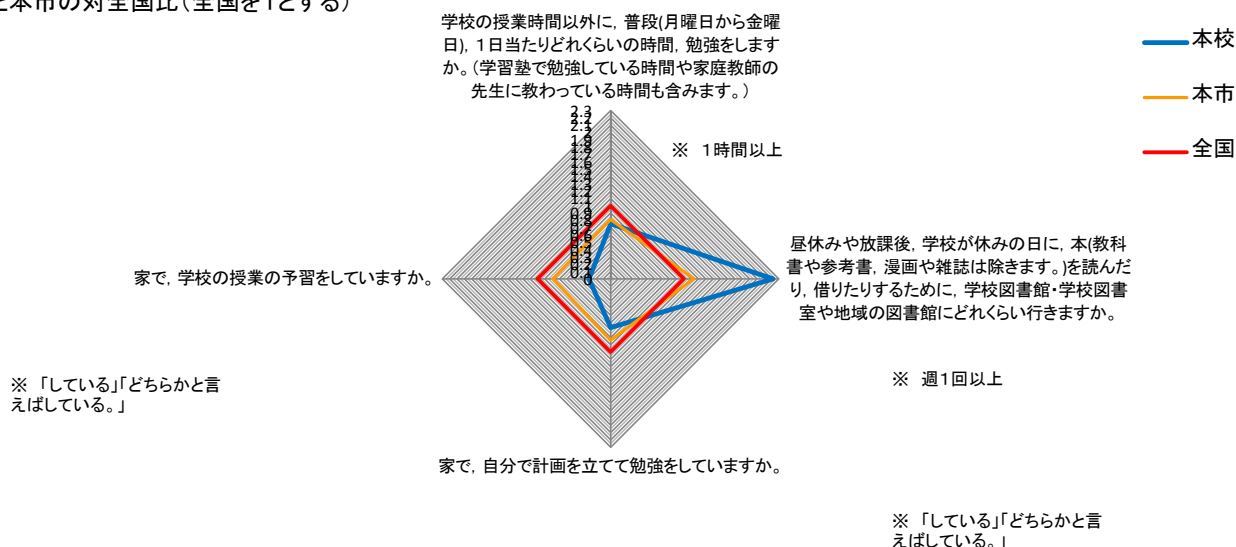
20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



22
家で、学校の授業の予習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・「平日の家庭学習の時間」については、1時間以上が全国比(75%)と低く、今後の取組の課題である。また、3時間以上が全国比(225%)と高い反面、全くしないが全国比(392%)と高く、学力の二極化の状況が見られる。

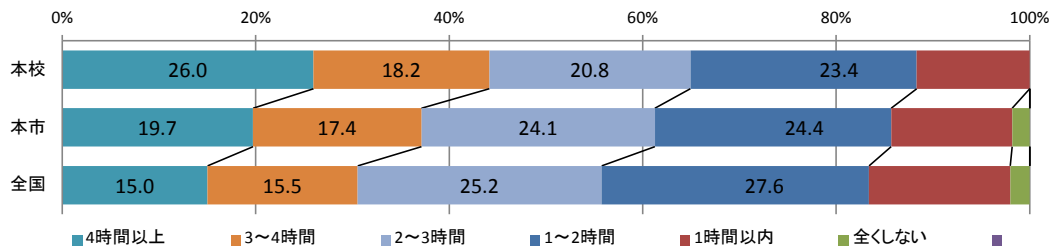
・「家で授業の予習をやっていますか」については、全国比(30%)と低く、今後の取組の課題である。

・「自分で計画立てて家で勉強していますか」については、全国比(67%)と低く、今後の取組の課題である。

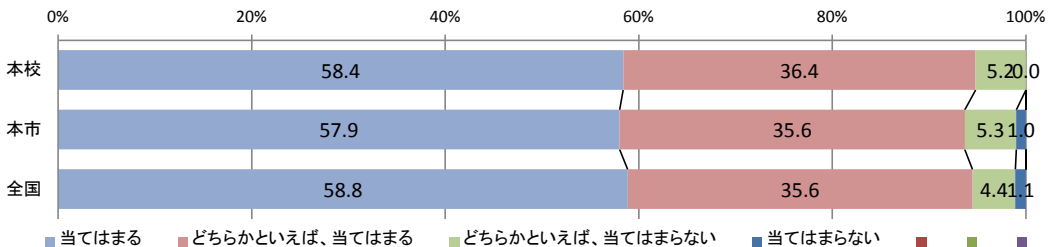
・「図書館の利用」については、全国比(222%)と大幅に上回っており、毎日昼休みと放課後に開館して積極的に生徒の利用を推進している本校の図書館教育の取組の成果であると思われる。

④ 生活習慣等に関する調査結果

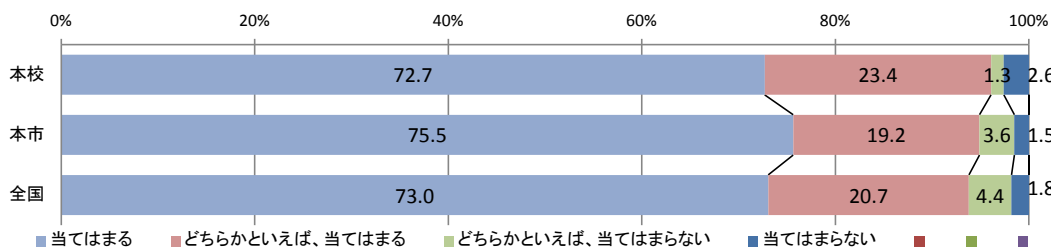
10
 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除きます。)



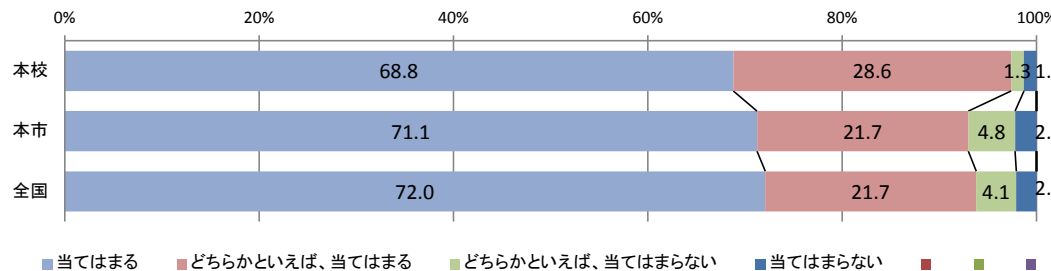
32
 学校のきまり[規則]を守っていますか。



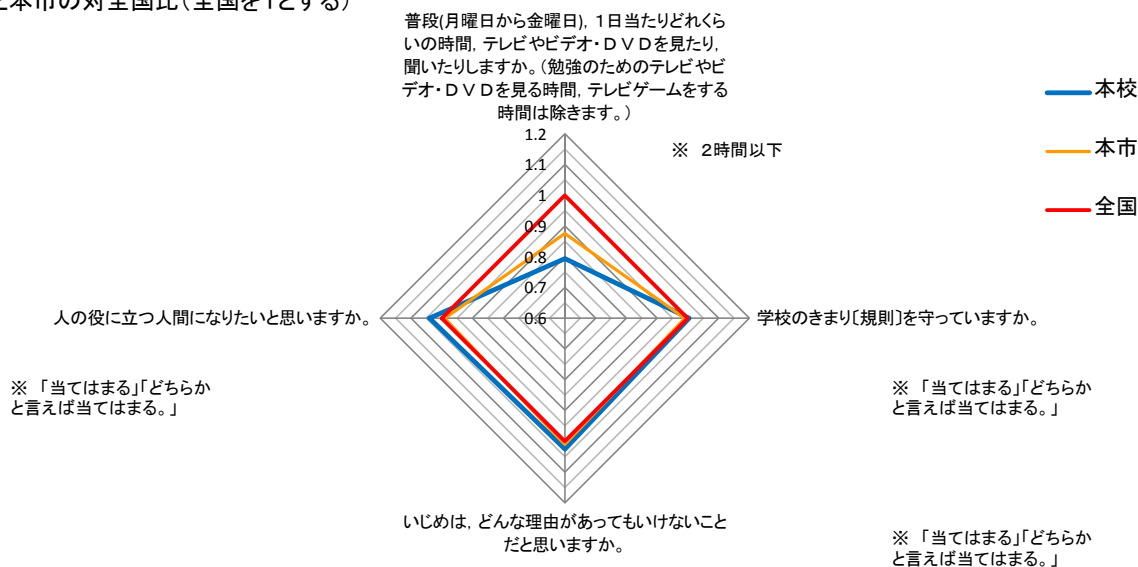
34
 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



35
 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・「家庭でのテレビ等の視聴時間」で、2時間以下が全国比(79%)と下回っており、テレビ等を長時間視聴している割合が高く、生活習慣についての課題であると思われる。

・「学校のきまりを守る」ことが全国比(100.4%)と上回ったのは、生徒会活動や道徳教育による規範意識の向上の取組の成果であると思われる。

・「いじめはいけない」が全国比(102.6%)と上回ったのは、道徳教育や相談活動・いじめアンケート実施などいじめ防止の取組の成果であると思われる。

・「人の役に立つ人間になりたい」が全国比(103.9%)と上回ったのは、道徳教育、進路指導・キャリア教育・職場体験活動など様々な教育活動の成果であると思われる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

※「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための特設時間<石峯タイム>の実施(全校で)
 - ・ 各学期に一回ずつ国語・数学・英語の基礎学力強化週間を設けて朝自習や帰りの自習を週毎に交替で実施し、週末に学習コンクールを実施する。(漢字・計算・英単コンクール)
- ◎ 全国学力調査の過去問題やCRTテストのアシストシート(練習問題)、活用力を高めるワークの活用(教科で、学年で)
 - ・ アシストシートやWEB問題(市教委作成ネット公開問題)を使い、基礎基本の定着を図る。
 - ・ アシストシートや過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- 「書くこと」を習慣化(教科で、学年で、学級で)
 - ・ 学習の最後、3分間を「振り返りタイム」として、振り返りを書くようにする。
 - ・ 連絡帳に3行程度の「ミニ日記」を書く。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・ 自主学習ノートの活用
 - ・ 家庭学習時間の設定
 - ・ 「家庭学習の約束」の作成・実施
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用(毎月、月末または月初めの週に提出、点検を実施、学習委員会の活動で)
 - ・ 家庭学習マイスター賞への応募
 - ・ 冬休み・春休みの宿題に過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取り組み等を保護者へ周知
 - ・ 学校便りや、学校ホームページを通じて調査の結果と取組の成果と課題について周知を図り、家庭教育学級や学年懇談会等を通じて、家庭と連携し協力体制を整える。